

戦後日本を代表する国際的知識人である加藤周一は1919年に生まれ、2008年に亡くなった。今年は生誕百年にあたる。これを記念して、東京・日仏会館と立命館大学は国際シンポジウムを催すこととした。立命館大学は「東アジアにおける加藤周一」を主題に掲げ、加藤周一現代思想研究センター、立命館大学図書館、立命館大学人文科学研究所が主催する。加藤周一の考え方は、和漢洋にわたる該博な知識に裏打ちされ、国際的視野のもとにものごとを捉えていく。ことに「日本の近代化」といかに取り組むかという思想的問題を生涯にわたって考えつづけた。しかし、非西欧社会における「近代化」は、日本だけではなく、東アジアの国々にとっても避けて通ることが出来ない問題なのである。韓国・中国・日本の研究者が東アジアに共通する問題を軸にして「加藤周一から何を引き継ぐべきか」を検討する。

加藤周一生誕百年記念企画

加藤周一を

21世紀に引き継ぐために

入場無料・申込不要

国際シンポジウム

東アジアにおける加藤周一

【第1部】講演（開始予定 9:30 / 昼食休憩有）

奈良勝司 | 広島大学
「近代日本の対外観と西洋理解」

孫 歌 | 中国社会科学院
「対談における加藤周一」

池澤夏樹 | 作家
「『日本文学史序説』を読む」

李成市 | 早稲田大学
「韓国からみた雑種文化論 — 一つの例として」

挨拶 ソーニャ・カトー | ユニカトー主宰

【第2部】パネルディスカッション（開始予定 16:30）

「雑種文化論と韓国・中国・日本」

司 会 小関素明 | 加藤周一現代思想研究センター、近代日本思想史

パネラー 樋口陽一 | 学士院会員、加藤文庫運営委員会顧問、憲法学

林慶澤 | 全北大学 (韓国)、文化人類学

王中忱 | 清華大学 (中国)、比較文学・比較文化論

【発表言語】日本語

2019

9.23 [月・祝] 9:30-18:30

立命館大学衣笠キャンパス

以学館1号ホール [定員 370名]

【主催】立命館大学加藤周一現代思想研究センター | 立命館大学図書館 | 立命館大学人文科学研究所

【共催】公益財団法人日仏会館

【後援】立命館大学国際関係学部 | 立命館大学国際平和ミュージアム 【協賛】岩波書店

【お問合せ】加藤周一現代思想研究センター事務局 TEL | 075-465-8306 Email | rcsk@st.ritsume.ac.jp

加藤周一 (1919-2008)

戦後日本を代表する国際的知識人であり、洋の東西にわたる視野のもとに日本文学史や日本美術史を研究した。海外で翻訳された著書は50冊近くにのぼるが、代表作である『日本文学史序説』は七カ国語に翻訳される。晩年は「九条の会」の活動に尽力。本学国際関係学部で客員教授、立命館大学国際平和ミュージアムの初代館長を務めた。

加藤周一文庫とは

加藤周一が遺した二万冊を数える蔵書、一万頁を超える手稿ノート、新聞記事、写真、地図、来信などの資料類が、御遺族によって本学に寄贈され、本学平井嘉一郎記念図書館に収められた。大半の蔵書は、同図書館2階の「加藤周一文庫」で公開され、手稿ノートの一部はデジタルアーカイブで公開されている。



平井嘉一郎記念図書館2階「加藤周一文庫」

講演者プロフィール



ナラ カツジ 奈良勝司

1977年京都府生まれ、立命館大学大学院博士課程修了。文学博士。ドイツ・ルール大学ボーム校客員准教授(2011～)、韓国・漢陽大学国際文化大学助教授、立命館大学助教を経て、現在は広島大学准教授を務める。専門は明治維新史で、世界認識論、近世近代移行論の視点から徳川政権を中心に研究を続ける。著書に『明治維新と世界認識体系』『明治維新をとらえ直す』などがある。



リ ソンシ 李成市

1952年名古屋生まれ。横浜国立大学教育学部助教授、早稲田大学文学部助教授を経て、1997年から同大学文学学術院教授。専門は古代東アジア史。博士(文学)。早稲田大学理事も務める。主な著作に『東アジアの王権と交易』『古代東アジアの民族と国家』『東アジア文化圏の形成』『創られた古代』『植民地近代の視座』『創られた古代』『留学生の早稲田——近代日本の知の接触領域』などがある。



ヒグチ ヨウイチ 樋口陽一

1934年仙台市生まれ。1957年東北大学法学部卒業。東北大学、東京大学、パリ大学(フランス)、フリブル大学(スイス)、上智大学、早稲田大学で教授、客員教授を務める。専門は憲法学。現在は、東京大学名誉教授、学士会議員、国際憲法学会名誉会長、立命館大学図書館加藤周一文庫運営委員会顧問など。主な著書に『近代国民国家の憲法構造』『抑止力としての憲法』、そして『加藤周一と丸山眞男——日本近代の〈知〉と〈個人〉』など多数がある。



ソン カ 孫歌

1955年中国吉林省省生まれ、東京都立大学で博士号(政治学)を取得。一橋大学客員教授などを歴任。その後、中国社会科学院文学研究所研究員、日本政治思想史専攻。著書に『私の日本論』『アジアを語ることのジレンマ』『竹内好という問い』『歴史の交差点に立つて』、編著『中国現代文学を読む—40年代の検証』、共著に『国外中国古典戯曲研究』、訳書に桑原武夫著『文学序説』などがある。



ソーニャ カトー Sonja Kato

1972年ウィーン生まれ、加藤周一の養女。ウィーン大学を卒業、同大学修士号(歴史学)を取得。フリーランスとしてオーストリア放送協会に勤務し、その後オーストリア社会民主党広報部に所属し、2001年から10年までウィーン市議会議員を務める。オーストリアの政治家アンドレアス・メイラス・ポコルニー氏と結婚。立命館大学と協同で、毎年、夏季に立命館大学若手研究者をウィーンに招待する。



イムキョンテク 林慶澤

1960年生まれ、韓国西江大学英文科卒業、1989年ソウル大学大学院人類学科卒業。1998年東京大学大学院総合文化研究科で学術博士学位取得。2002年に韓国国立全北大学校日文学教授に就き、現在は韓国国立全北大学校考古文化人類学教授。専門は文化人類学。韓国日本思想史学会副会長、韓国琉球・沖縄学会会長を歴任し、現在、韓国文化人類学会会長。共著に『中心と周縁からみた日韓社会の諸相』『日韓関係史1965—2015.3』など多数がある。



イケザワ ナツキ 池澤夏樹

1945年北海道帯広市生まれ。作家、詩人。小学校から後は東京育ち。多くの旅を重ね、3年をギリシャで、10年を沖縄で、5年をフランスで過ごし、今は札幌在住。1987年に『スティル・ライフ』で芥川賞受賞。その後の小説に『マシアス・ギリの失脚』、『静かな大地』、『双頭の船』など。加藤周一の影響の下にした仕事に、『終わり始まり』、『池澤夏樹—個人編集 日本文学全集』、『新作狂言「鮎」』など。



オゼキ モトアキ 小関素明

1962年生まれ。立命館大学大学院博士課程単位取得退学、国立歴史民族博物館歴史研究部助手、立命館大学文学部助教授を経て、立命館大学文学部日本史研究学域教授。専門は近代日本政治思想史。主な著書に『日本近代主権と立憲政体構想』があり、論文に『明治維新「革命」論』『日本における主権の権力の原理と形状』、加藤論に『加藤周一の精神史——性愛、詩的言語とデモクラシー』がある。



ワンツォンチェン 王中忱

1954年中国吉林省生まれ。中国東北師範大学中国語文学部卒業。1992年大阪外国語大学言語文化学修士取得。岩手大学人文社会科学部助教授を経て、現在は、中国清華大学人文社会科学学院教授。専門は比較文学・比較文化、日中近現代文学及び北東アジア地域文化史。著書に『越境と想像—20世紀中国日本文学比較研究論集』、『走説記—中国と日本の狭間で：文学雑記』など。大江健三郎著『個人的な体験』などを中国語訳する。日中の文化学術交流に尽力。

会場案内



市バス、JRバス「立命館大学前」下車
または市バス「衣笠校前」下車、徒歩10分

共催シンポジウム 加藤周一の知的遺産と世界の中の日本

於：日仏会館ホール(東京)

9.21(土)

- 1 「雑種文化論」の射程 | 司会 | 三浦信孝(日仏会館副理事長) | 登壇者 | 樋口陽一(日本学士院)、ピエール=フランソワ・スイリ(ジュネーブ大学名誉教授)、小籠英二(慶應義塾大学)
- 2 私たちが加藤周一に負うもの | 司会 | 鷲巢力(立命館大学) | 登壇者 | イルメラ・日地谷 = キルシュネライト(ベルリン自由大学)、水村美苗(作家)、ソーニャ・アンツェン(トロント大学名誉教授)
- 3 加藤周一をめぐる誤解を晴らす | 司会 | ベルナルド・トマン(日仏会館・フランス国立日本研究所所長) | 登壇者 | クリストフ・サブレ(フランス国立科学研究センター)、ジュリー・ブロック(京都芸工繊維大学)

9.22(日)

- 4 加藤周一を批判的に継承する | 司会 | 澤田直(立教大学) | 登壇者 | 山元一(慶應義塾大学)、三浦篤(東京大学)、片岡大右(慶應義塾大学)
- 5 加藤周一における文学と政治 | 司会 | 西谷修(東京外国語大学名誉教授) | 登壇者 | 海老坂武(元関西学院大学)、三浦信孝(中央大学名誉教授)、澤田直(立教大学)
- 6 加藤周一を超えて考える：世界の中の日本 | 司会 | 三浦信孝 | 登壇者 | 西谷修、白井聡(京都精華大学)

主催 公益財団法人日仏会館 お問い合わせ TEL 03-5424-1141 Email bjmfmj@mfmtokyo.or.jp